

「本部」反動分子のスト破壊攻撃を粉碎してかちとられた4.16スト

日刊 動労千葉

80.4.18

No. 406

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（電話）二五八・九・（公衆電話）七二〇七

4.17減産闘争を基点に 八〇春闘の再構築へ

動労千葉は、権力・当局と一体となった「本部」革マル反動分子の春闘破壊策動を、ものに見事に粉碎し、四・一六ストを戦闘的に、かつ整然と闘いこった。そして政府・当局による異常なまでの低賃金抑制攻撃による、公労委調停不能という事態を突破すべく「政府の不当介入抗議」「京成闘争支援」四・一七24日減産闘争を貫徹した。ストなし春闘策動をうち破り、既成指導部が、政府の不当介入によって、公労委調停不能という異常事態に当惑し混乱し闘う方針を出しえないなかであって、唯一動労千葉が八〇春闘再構築へむけた闘いを牽引した。四・一七24日減産闘争の成果と確信に踏まえ更に前進しよう。

当局に守られてスト破壊を行う「本部」

四月十五日の「本部」革マル反動分子二百のヘル部隊による、投石と竹竿でつきかかる「四・一七型暴力襲撃」をもってした、津田沼スト拠点破壊策動を粉碎した動労千葉は十六日零時を期して千葉・鹿島拠点ストに突入した。

津田沼支部は、「本部」革マル反動分子によるスト破壊策動とそれを呼び水とした権力の弾圧を許さず怒りに燃えて、十五日からの籠城体制を確立し、十六日十二時よりストライキに突入し、首都圏を最後まで牽引し闘い抜いたのである。

一方、「本部」革マル反動分子によって、スト破壊のためにのみ十四日急ぎょ仕立てられた「津田沼特別班」なるものの「スト」は、前代見聞の「たたかい」であった。

動労千葉のスト破壊に失敗した彼らは、当初、職場に籠城するなどといったが、それもできずに「三信ビル（津田沼事務所）」でのネットライキをきめこんだのである。

しかも「スト対象乗務員」は、当局側のスト対策要員に手厚く守られ津田沼電車区から「三信ビル（津田沼事務所）」に送り迎えされながら「スト」に「参加する」という当局との密着ぶりをさらけ出したのである。

一体全体これまでの数ある闘争の歴史のなかで、当局に守られて「スト」を行う等という労働組合があったであろうか。そればかりか、職場でのスト立ち上り交渉もせず、十六日十七時早々に職場復帰をし、卒先してストライキ収拾に協力しているのだ。

このように、「本部」革マル反動分子は、ストライキを利用して春闘を破壊せんとするスト破り集団としての本性を満天下にさらけ出したのである。

動労「本部」津田沼特別班を解体せよ

四月十四日、荳マルスパイ分子・嶋田誠や斉藤



当局に手厚く保護されて電車区⇄三信ビル間を往復する裏切り分子。（4月15日、津田沼電車区）

（吉）をはじめ、短期転勤者でもって結成したという「津田沼特別班」なるものを、われわれは断じて許さない。

スト破壊のためのみ急ぎょ結成し、四・一五スト破壊襲撃の手先になりさがった、裏切り分子の集団を、どうして許せようか。

われわれのほんのささやかな糾弾行為に対して「暴力」だと泣きわめき、ことごとく当局に泣きつき、弾圧を要請する腐り切った反動分子はもはや容赦できない。

当局に泣きつき、動労千葉への弾圧を乞い願うならばするがいい。われわれは、あのマル生粉碎闘争で鍛えられた団結力と教訓をもって、さらには、四・一七津田沼襲撃事件を頂点とした「本部」革マル反動分子との一年間にわたる組織闘争闘戦にうちかかってきた団結力をもって反動分子の「特別班」を確実に粉碎するであろう。